



相談支援係
072-941-3365

ICT教育推進係
072-943-5785

研究研修・幼児教育係
072-943-5784

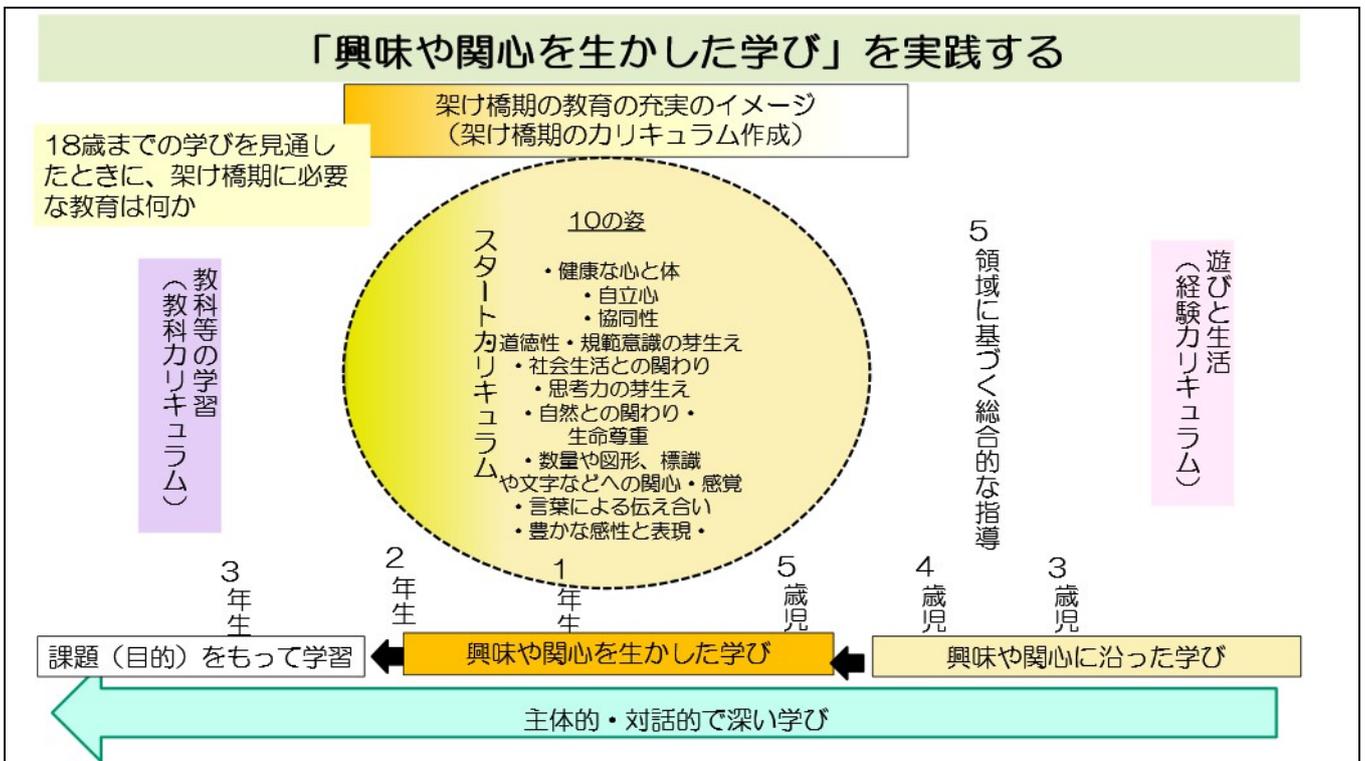
教育センター
Web page は
こちらから



第4回 幼・保・こ・小合同研修会

令和8年1月27日（火）第4回 幼・保・こ・小合同研修会を午後3時30分～午後5時に八尾市文化会館（プリズムホール）会議室1で行いました。講師は大阪総合保育大学 神長美津子 特任教授で、研修テーマは「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために～実践交流を通して、子どもの育ちや学びを知り、気づく～」です。

[研修使用資料](#) ↓



＜受講者感想＞

- 子どもの気づきを保育者が共感する大切さを感じた。子どもたちの気づきを自分が気づけていないと感じたので、気づくことができるようにしたい。(就学前)
- “子どもが主体の保育” から、子どもの気づきがたくさんあることは、子どもたちの様子を見ているとよくわかる。しかし、プログラムに追われて素通りしていると感じた。子どもがもつ力を十分に発揮できる環境や支援の重要性が学べた。(就学前)
- 幼児教育と小学校教育はかけ離れたものと感じていたが、具体的な実践内容や子どもの姿を聞くことで、多くの共通点があると分かった。(小学校)
- 昆虫ランドの事例から、学習活動の展開を教師側が示した通りにするのではなく、子ども主体で「やりたい」と感じたことのサポートに徹したい。特に生活科で、子ども主体で展開していけるように実践したいと思った。(小学校)

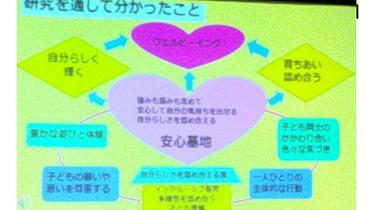




令和8年2月5日(木)午前9時30分～午後2時30分に 令和6・7年度 幼児教育研究—2年次 研究発表会—を西郡そよかぜこども園で行いました。研究テーマは「心も体も元気いっぱい！自分らしさ輝くこども園～心地よいそよかぜの中 育ちあい認め合おう～」です。午前は1時間30分公開保育(0～5歳児)を各保育室で行った後、育ちあい♡タイムとして「子ども一人ひとりの“今”をどう受けとめ、自分らしく輝く姿を支える環境構成と保育者の援助とは」を討議の柱に意見交流しました。午後からは園より、各学年の個性あふれる報告や子どもの育ちを種から花が咲く過程と絡ませたストーリー仕立てで小学校への接続も意識された研究発表がありました。その後、武庫川女子大学 鶴 宏史 教授から指導講評と「自分らしさ輝くこども園～育ちあい認め合う中で、0歳から5歳の育ちをつなぐ」をテーマにご講演をいただきました。

＜受講者感想＞

- 先生方の温かい雰囲気と子どもたちがしたいことを1番に考えて叶える姿にとっても感動しました。自分の保育を振り返り向き合おうと思えました。
- 公開保育では、子どもたちの生き生き輝くにつながるたくさんの姿を見せていただき、先生方が大切にしてくられた証だなと感じました。
- チーム西郡のみなさんの自分らしさ、個性大爆発の研究発表会で、チームワークの良さ、先生方が大切にしてきたこと、思いが伝わってくる面白くて素敵な発表でした。
- 「前向きに諦める」という言葉を聞いて、そういう考え方もあるんだと私自身の気持ちも軽くなった気がした。何事も肯定的な見取りを大切に、子どもの気持ちに共感していきたいと思った。
- 「できる」「できない」ではなく、「やってみたい」「伝えたい」という子どもの思いを認めるかわりが子ども一人ひとりの輝きに繋がっていると思えました。
- 子どもたちの興味・関心をひくようなスキルやネタは、小学校の教員にとっても学びが多くあると思えました。
- 講演では、今日の保育についてや具体例を交えたお話で考えの整理にもなりました。また、0～5歳児の中でそれぞれどんなことが成長しているのか知れたとともに、保育者の関わりや存在は本当に大きいものだ分かりました。



小学校以降の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながる

10の姿「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「思考力の芽生え」、「言葉による伝え合い」

自分らしく輝き育ちあう中で育む力の育成

育まれた力	子どもの姿
一生懸命取り組む力(がんばる力)	遊びに集中する、繰り返し試す、挑戦する、「～したい」(意欲)が継続する、根気強く取り組む 等
考える力	問題(やりたいこと)を見つける、もっとよいやり方を考える・見つける、自分なりに工夫する、これまでの経験をもとに新しいやり方を見つける 等
よりよく他者とかわる力	他児に関心を持つ、他児と一緒に遊ぶ、イメージを共有する、他児の考え・思いや遊びの流れに乗る、自分の気持ちをコントロールする、他児の気持ちを理解する・受け入れる 等
伝え合う力	自分の気持ちや思いを表す・伝える、他児の思いを聞く、他児と話しながらイメージを共有したりふくらませたりする 等

＜研究園からの声＞

• 鶴先生の講演を受け、保育を可視化し、学び合い、お互いの思いを尊重し合って対話をするをこれからも大切にしていきたい。そして、自分らしく輝き育ちあえるように乳児期の土台をしっかりと支えられるよう丁寧にかかわり非認知能力を育みたい。



・研究発表会の場で、自分の保育について話をする機会をいただけたことが、とても貴重な経験だと感じます。自分の引き出しが増えた分、その知識を必ず保育の現場で活かそうと思います。

・これまでの保育や保育の中での思い、子どもの姿が伝わっていく瞬間を見ることができ嬉しかったです。研究を通して、「チーム西郡」の温かさを感じました。

・今回のたくさんの学びを復習し、実践していきたいです。定期的に振り返りをして保育力やチーム力を高めていきたい。



「これも作戦やもんな！ 勝っても負けても楽しいな！」

～『やってみよう！』が学びの芽～



5歳児の様子



2月12日、5歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

友だちと一緒に絵描きやけん玉を楽しんでいました。私の姿を見つけると、「〇〇ちゃんは絵描くのが得意やねん、ほら上手やろ！」「失敗してもいいねん。一日中練習したらできるようになるねん！」など、自分のことのように友だちについて紹介してくれました。すると、「こっちも私が描いたやつやねん」「こうやって足を動かしてリズムを取るとやりやすくなるねん」と紹介された子どもたちも嬉しそうに追加で話をしてくれました。

その横で、「ゴミモンスターの話もきいてよ！」「仲間が少ないから力が弱くなる」とゴミモンスターに扮したA児が訴えていました。「じゃあ縄跳び対決しよや！」とエコレンジャーに扮したB児の声で、周りにいた子どもたちも「よっしゃ～！」「パワーアップや！」とお茶を飲んだり、靴下を脱いだりして対決の準備をしていました。「負けへんで～」「対決だ～」と気合い十分に、ゴミモンスター対エコレンジャーの縄跳び対決が始まりました。引っかからずに跳び続けられた方が勝ちというルールに対して、エコレンジャーチームは“前に進んでぶつける！”という作戦を考えていました。

ゴミ：「もうやめてよ！あたるやんか～」

エコ：「だって、これも作戦やねんもんな～」「そうそう！」

ゴミ：「え～。そんなんあり？」

「ちょっと、こっちも作戦考えさせてよ～」

エコ：「どうぞどうぞ！」

ゴミモンスターチームは、跳びながら後ろへ下がるという作戦を立てていました。しかし、次に控えている友だちに当たってしまうという状況がありました。結局、“前に進んで強気で跳ぼう！”と作戦変更することにしていました。どちらのチームとも負けても勝っても笑っていたり、縄跳びがあまり得意ではない子どもも「次は勝つぞ～」と喜んでいたりして一緒に楽しんでいました。



子どもたちが好きな遊びの中で、興味・関心をもった遊びに自発的に加わり、楽しさを共感、対話を通して思いを伝え、相談、試行錯誤したり、折り合いをつけたりしながら、遊びが盛り上がっていました。子どもたちの遊ぶの姿から、『主体的・対話的で深い学び』が自然と繰り広げられていると思いました。

また、「僕は今からパトロールに行ってくるから～」と白バイに乗って、出発したと同時に、「ちょっと待って！」と横断歩道を安全に見守る警察官も現れました。「悪い人がいないか、見てきますね」と廊下を見回りに出かけていきました。何も知らないであろう私に対して、遊びに必要なものやルールの説明をしてくれました。自信満々の表情から、自分たちで考えた遊びであることもよくわかりました。

しばらくして、遊戯室に移動しました。21日の生活発表会の予行ということでした。決められた物語の中で演じ、決められたセリフを覚えて言うものではなく、日ごろから楽しんで遊んでいる好きな遊びの延長線上の生活発表会であることが、よくわかりました。こども園での生活や遊びが途切れることなく、楽しい気持ちをつなげていきたいという、担任の先生の愛を感じることができました。たくさんの観客を前に委縮してしまう子どももいる中、そっと教えてあげたり、手を引いてあげたりするさりげない優しい姿も見られました。また、自分の役割を一生懸命に果たそうとしたり、大きな声で喋ろうと意識したりする子どももいました。細やかな保育者のかかわりがあり、子どもたち一人ひとりが自分らしさ輝き、生き生きとした姿となっているのだと感じました。



あと1か月半すると、小学校1年生になる子どもたちです。こども園という集団の中で、思い通りにいかず悔しい思いやトラブルもたくさん経験したことと思います。その都度、寄り添ってくれる仲間からの励ましで乗り越えてきたのではないのでしょうか。また、自分のやりたい遊びを存分にでき、認められることで自信を積み重ねて、堂々とした姿になっていったのだと思いました。

幼児教育での遊びを通して育んだ力（学びの芽）を、小学校でも笑顔を絶やすことなく、学びの花として咲かせてほしいと思いました。

♪シンキングタイム♪

上記のエピソードから、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とリンクさせてお読みいただけましたか？保育者は、遊びの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりしています。これこそが、『遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”』です。

小学校の先生と就学前施設の保育者で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿を共有し、語り合うことで、育ちをつなげていきたいです。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・

その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は2月から3月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）3月号

・特集 コロナ禍がもたらしたもの 一直面した課題と得られた学び

巻頭言に東京家政大学の 平山 祐一郎 教授の文章が掲載されています。まずは「新型コロナウイルス禍時代の記憶テストです（抜粋）。

問① 同一の場所で多くの人がまとめて感染した状態を何と呼んだか

問② 感染防止のため、都市などを封鎖することを何と呼んだか。

問③ 法律上、新型コロナウイルスを季節性インフルエンザと同様の扱いにすることを何と呼んだか。

問④ 日本で使用されたワクチンを三つ挙げよ。

問⑤ 疫病退散のために注目された日本の妖怪は何か。

※回答は文末です。意外に忘れていたものです。

ところで、平山教授の論旨はこれではなく、コロナ禍時代に行われたオンライン授業をやめてしまうのはもったいないという話です。世界的にはコロナ禍以来オンライン授業が積極的に活用されているのに、日本は乗り遅れているとのこと。大学だけではなく、小・中・高校でもオンライン授業を活用すれば「教師の業務改善の一つの光明」になり得るのではないかとのことです。コロナ禍時代に行われた小中学校のオンライン授業がどれほど効果的に行われたのかという事については十分な効果検証が必要ではないかと思えます。その上で、不登校児童生徒が増えている今日、オンライン授業の実施は有効な手段の一つではあります。他の記事の中で様々な先生方が、オンライン授業の成果や課題を論じられています。

「新型コロナウイルス禍時代の記憶テスト（抜粋）」の回答

①クラスター ②ロックダウン ③五類移行 ④ファイザー製、モデルナ製、アストラゼネカ製 ⑤アマビエ

「こころの科学」（日本評論社）No.246 2026.3Mar

・特別企画 アサーション 協働と連携に活かすコミュニケーションの力

わが国にアサーションを導入した平木典子氏は、アサーションとは「自分も相手も大切にしたい自己表現」とされています。アサーションの力を高めるトレーニングがアサーション・トレーニングです。「アサーションは支援対象者と支援者の関係のみならず、支援者同士の連携においてもその効力を発揮しうる。」とも述べられています。

望月 由紀子 教授（東邦大学）は「アサーション／アサーティブネスとは」と題して寄稿されています。AT（アサーション・トレーニング）について歴史から説明をされています。

三田村 仰 教授（立命館大学）は「文化の中でのアサーション」と題して寄稿されています。「率直型アサーションやポライトネスの普遍理論」等について説明をされています。

樋口 穂乃佳 氏（立命館大学）は「機能的アサーションとは」と題して寄稿されています。「機能的アサーションの三原則と三ステップ」等を紹介されています。

黒木 幸敏 教授（神戸松蔭大学）は「学校での連携におけるアサーション・トレーニング 導入の意義と方法」と題して寄稿されています。「学校組織におけるアサーションの適応領域と方法」等について紹介されています。

「道徳教育」（明治図書）3月号

- ・特集 問い返し力を鍛える

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）3月号

- ・特集 子どもの強み、良さ、学び方を活かす

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）3月号

- ・特集Ⅰ 学習指導要領実施状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実③
- ・特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント「図画工作」地域を生かした授業づくり

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）3月号

- ・特集 コミュニティ・スクールを活用した教育活動の展開

教育科学「国語教育」（明治図書）3月号

- ・特集 永久保存版 漢字指導法図鑑

教育科学「社会科教育」（明治図書）3月号

- ・特集 <次期学習指導要領に向けた>社会科教育内容の構成と授業展開